

<桜並木を見守って、3年間>

1月28日(日)花芽観察会が行われました。参加者は39名。心配された雨も無く、花曇りの中、石井樹木医の巧みな会話と説明で和やかな雰囲気の中、観察会が行われました。午後は、場所を移して、観察会のまとめと「桜の毛虫」についてお話がありました。さらに2月8日には、会員の有志による桜診断一覧の更新のための調査を詳細に行いました。

今回の観察会で3年目となる桜診断調査を機会に、過去のデータも分析した結果、下記のような変化と評価が得られました。尚、別紙の表は3年間の<桜診断一覧表>の経過と現在の状況をまとめたものです。A、B、Cのランク付けは、樹勢の状況を表したもので、Aランクが、良好で、何の問題もない樹勢状態。Bランクは、問題があり、対処中。Cランクは、倒木や枯死の可能性があり、危険な状態を表しています。

1. 桜木戸籍数： 51戸籍
2. 樹木数(2月8日現在)： 48本(A, B, Cランク樹木合計)
2. Aランク： 28本
3. Bランク： 17本
4. Cランク： 3本
5. 倒木及び枯死による伐採： 3本
6. 3年間でB及びCにランク下げした桜木：7本
7. 3年間でA及びBにランク上げた桜木：4本

この3年間の桜維持管理の中で特に目に見えて変化があったことは、続けてきた胴巻きをはずしたことです。(当初12本に胴巻きあり、内8本胴巻き撤去した。)不定根が育って、世代の交代が行われています。



不定根
の成長



2005年9月 胴巻きを撤去

しかし、健全だった桜木が弱ってきている傾向が確実にあるということです。桜並木は全体に弱っています。上記のように3年間で、病気や害虫によって枯れ死し、倒木、または伐採した桜木が、3本あって、BやCのランクに下がった桜木がランク上げた桜木よりも倍近く多くなっています。特に、この1年間で、確実に元気がなくなっている桜木が増えていると

ということです。

●考えられる3つの要因：

1. 上北沢の桜並木は80年たち、桜木の老化が進んでいる。
2. 桜並木の入り口から2、3番目のブロック(BC,CDブロック)にある桜木には、<ナラタケモドキ1>というきのこが発生し、土壌汚染と菌の拡散があります。
3. 桜並木の入り口に最も近いブロック(ABブロック)では、車による排気ガスと車による衝突や傷によって、桜木が弱っていることです。

1. については、確かにソメイヨシノ寿命60年説というのがあるぐらいで、寿命が原因で、多くの問題が出ていると思われます。

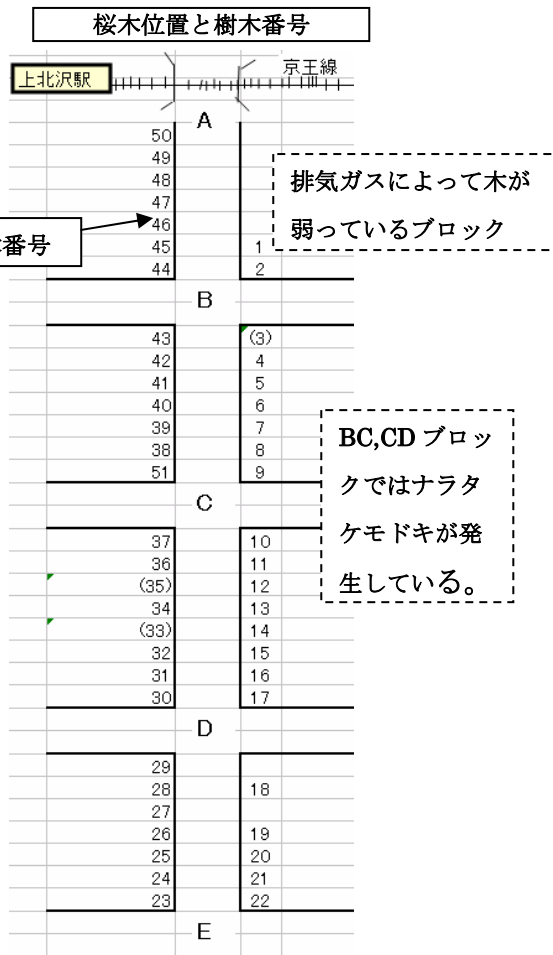
桜診断一覧 2005年1月～2007年1月(3年間)の桜並木の変化						
樹木番号	区設定コード	2005/1/23	2005/9/25	2006/1/30	2006/9/28	2007/2/8
AB e 1	1	A	A	A	B	B
AB e 2	2	A	A	A	A	B
AB w 1	50	B	B	B	B	B
AB w 2	49	B	B	B	B	B
AB w 3	48	A	A	A	A	A
AB w 4	47	C	C	C	C	C
AB w 5	46	A	A	A	A	A
AB w 6	45	B	B	B	B	B
AB w 7	44	B	B	B	B	B
BC e 1	3	***	***	***	***	***
BC e 2	4	A	A	A	A	A
BC e 3	5	A	A	A	A	A
BC e 4	6	A	A	A	A	A
BC e 5	7	A	A	A	A	A
BC e 6	8	A	A	A	A	A
BC e 7	9	B	B	B	B	B
BC w 1	43	B	B	B	C	C
BC w 2	42	A	A	A	A	A
BC w 3	41	A	A	A	A	A
BC w 4	40	A	A	A	A	A
BC w 5	39	A	A	A	A	A
BC w 6	38	B	B	B	A	A
BC w 7	51		H17 11月移植	A	A	A
CD e 1	10	B	B	B	B	B
CD e 2	11	A	A	A	A	A
CD e 3	12	A	A	A	A	A
CD e 4	13	A	A	A	A	B
CD e 5	14	***	***	A	A	A
CD e 6	15	B	B	B	B	A
CD e 7	16	B	B	B	C	C
CD e 8	17	B	***	A	A	A
CD w 1	37	A	A	A	A	A
CD w 2	36	A	A	A	A	A
CD w 3	35	B	B	B	B	***
CD w 4	34	A	A	A	A	A
CD w 5	33	C	C	***	***	***
CD w 6	32	A	A	A	B	B
CD w 7	31	A	A	A	A	A
CD w 8	30	A	A	A	A	B
DE e 1	18	B	A	A	A	A
DE e 2	19	A	A	A	A	A
DE e 3	20	B	B	B	B	B
DE e 4	21	A	A	A	A	A
DE e 5	22	A	A	A	A	A
DE w 1	29	C	C	C	C	B
DE w 2	28	B	B	B	B	B
DE w 3	27	B	B	B	B	B
DE w 4	26	B	B	B	B	B
DE w 5	25	B	B	B	B	B
DE w 6	24	A	A	A	A	A
DE w 7	23	A	A	A	A	A

しかし、私たちの桜並木では、<不定根>による世代の交代

が既に行われ成功している桜木が多くあります。青森県、弘前城の桜は、ソメイヨシノでも、120年以上生きています。ソメイヨシノの寿命は、人間が少し手を貸してやることで、自らの生命力で新しい世代に代わっていくことが実証されています。

2. については、土壌改良などによる樹勢回復の方法が、いろいろ考えられていますが、決定打はなく、とても困難な仕事です。さらに、ナラタケモドキが発生する原因には、建物が迫って、日陰を作っていることが桜木を弱らせる原因になっていたり、工事で根を傷つけられ菌が入り込むとも考えられます。当面 枝切りを行いながら、樹勢回復が自力で行われるのを見守る他ないでしょう。

***	倒木及び枯死伐採		伐採決定
	ランク落ち		ランク上げ



1 <ナラタケモドキ>が発生すると多くの樹木が、枯れ死する可能性が大きい。これまでの道や建物の工事で根を切ってしまったため、そこからナラタケモドキというキノコの菌が根に入り込んで、根を枯らしています。このキノコの菌は、木が成長している形成層(樹皮のすぐ下)を食べていくので、木にとって一番大切な生きている部分がダメになってしまうのです。この菌が入って形成層を食べつくしてしまうと、その後から木の中の方の芯材を食べる新たな菌が侵入し、最後にはスポンジのようなドロドロ・スカスカの状態になってしまいます



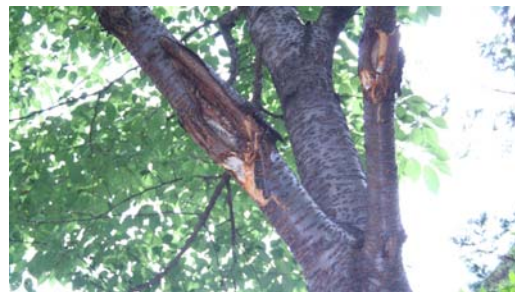
2004年9月伐採した切り株と
ナラタケモドキ



2006年11月の発生した
ナラタケモドキ

3. についての原因は、人間が影響を及ぼしていることなので何とかしたいものです。ABブロックは、ご存知のように車幅がほかの車道よりも広く、商業車や一般車がいつも駐車しています。しかも、アイドリングしながら、人を待ったり、仕事を済ませているようです。このときの車から出る排気ガスによって桜は弱っていきます。車寄せでは、車は、桜木に衝突します。ソメイヨシノは、誠にデリケートな樹木で、根ばかりでなく、幹の木肌で呼吸していますので、育つ環境に大変影響されます。もし、排気ガスを桜木に吹き付けられますと桜木は呼吸できなくなって窒息するのです。車による衝突では、傷を受けた桜木の木肌からは、菌が入り込みます。＜桜切るバカ＞といわれますが、桜の直径5cm以上の桜の枝を切れば、そこから菌が入り込み枝は腐食するのです。そこで、切り口に薬剤を塗って、菌が入るのを防いでいます。＜コスカシバ＞の幼虫によって幹につけられた傷からも菌が入ります。そして、腐食します。腐食したり、弱っている桜木には、きのこができて、木を枯らすのです。

車による桜木への被害は相当なものと考えべきです。毎月48本のどれかの桜木が傷つけられています。昨年10月には引越しの車が直径20cmの大枝をもぎ取るという事件が起きました。大変なスピードで車が桜木に激突したのです。桜並木を守るということはその住む環境を良くすることに繋がります。車の排気ガスや車による桜木への衝突は人間が原因です。これは、私たち



車によって傷つけられた枝

の住む環境がそれだけ悪くなって、人は意識しませんが、桜も人間も病んで来ているのです。環境問題とか、温暖化の論議をするのも大切ですが、もっと身近な出来事に目を向けていくことで、私たちの街も少しは住みよい街になっていくと考えます。

以上

(上北沢桜並木会議 佐藤信二郎)

2 サクラ、ウメ、リンゴなどの幹や枝に食い入るイモムシ（幼虫）。最大長約25mm。体は淡い茶色。頭部は茶色。被害部位にはヤニや糞がみられる。
公園や街路樹などで多発することがある。（原色樹木病害虫図鑑）